

令和三年度

勿来高だより

第一号 令和三年卯月二十八日発行

入学式

新入生三十八名

四月九日（金）本校体育館にて、令和二



年度入学式が挙行されました。ご来賓並びに保護者のご列席のもと、三十八名の新入生を迎えました。

今年度入学生から新制服となりました。落ち着いた雰囲気です。ねごとご来賓の方々からも

大変好評でした。

コロナウイルス感染症防止対策のため、全員マスクをしたまま入学許可を受けましたが、しっかりとした返事で、本校で学ぶ意欲を感じました。

校長式辞(抄)

「コロナウイルスの猛威は未だに衰えを知りません。「ありふれた日常」という言葉が非日常に聞こえる日々がこれから続く可能性を考えれば、私たちを根本的に支える概念の転換をせまる、まさにパラダイムシフトの端緒に、私たちは立っていると言えるのかもしれない。

ただ、そのような転換点に立ち、ありとあらゆる日常が引きはがされたからこそ、見えてきたものがあります。それは、ありふれた日常、当たり前前の日常がいかに多くの人の関わりによって支えられてきたかということです。

皆さんがこれから過ごす勿来高校という限られたコミュニティの学習という行

為でさえ、実に多くの人々が、自分に与えられた役割を自覚し、自らその役割を果たそうと積極的に活動することによって、まるで当たり前のように保証されているのです。

ここで、新入生の皆さんに一つ問いたい。皆さんは、勿来高校で何を学ぶつもりですか。三年後、皆さんは成人を迎える。今話をしたように、何かしらのコミュニティに所属し、成人としての役割を求められる。社会を支える側の人間になるわけです。だからこそ、勿来高校で何を学ぶつもりかを問いたい。

本校校是は「知性と自律」です。将来社会を支える皆さんにとって、大切な精神であることは言うまでもありませんが、本校生になったからといって、自然に身につくものではありません。勿来高校で何を学ぶのか、常に考え続けること、求めることで身につく大切な精神です。本校で考え続け、求め続けてください。

そのために本校では、例えば校舎を一つにするいわき支援学校くぼた校の生徒と本校生がともに学ぶプログラムが用意されています。様々な個性を持つ人たちとともに生き、ともに社会を支えるにはどうすればよいか、本校の友人や先輩だけでなく、くぼた校の友人や先輩との関わりをとおして、学ぶ機会を生かしてください。

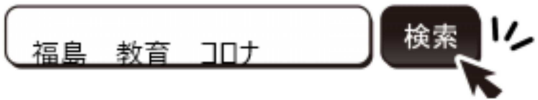
新入生の皆さん、私たちは皆さんを歓迎します。私たちとともに、充実した高校生活を送り、社会に貢献する人間として、大きく成長することを心から祈念し、式辞といたします。

コロナ対策続く

四月二十三日のいわき市長による「いわき市感染拡大防止一斉行動」の呼びかけに呼応し、県教育委員会より通知があり、いわき市内の県立学校には、五月十六日まで、対策取組の強化を行います。

休校等の措置は行いませんが、授業や昼食時、また、帰省等での家庭でのマスク着用など、いわき市内の小中学校と連携しながら、安心安全な学校活動の維持のため本校においても対応して参ります。

県立学校のコロナ対応等については、福島県教育委員会ホームページをご覧ください。



学校点景

☆一年生のカバン



テストだったので廊下に並べてありました。

製白カバンでした。わかる人は五〇代？

た。私の時代は革の学生カバンでしたが、今は全く見ませんね。お湯を入れたりして、薄くするのはやっています。ちなみに、中学時代の斜めがけの帆布

☆一年生の自転車



ぴかぴかの自転車。手前の自転車はブリヂストン。

ところが、一つ奥の自転車にはフルクロスワッゲンと銘打ってあります。他にもシボレーがありまして。一年生にしてすでに外車オーナーです。

☆惑星体験



校庭にいますが、理科の授業です。先生

が持っている惑星の模型は、太陽系の惑星の距離を校庭内に収めるように縮めたものです。今火星で小さなヘリコプターが飛んでいます。木星までの距離に比べたら、ほんのご近所。「2001年宇宙の旅」の実現はまだまだ先の様相です。

校長のつぶやき

昨年度引き続き、中野茂が務めます。これまで同様、よろしく願っています。

(本紙中のイラストは「いらねえ」WEB ありお備の「ていまつ」)